

月次レポート

第10号
2009年9月9日作成

ユニオンファンド

追加型株式投資信託／ファンド オブ ファンズ
(分配金再投資専用)



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2009年9月9日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況

	2009年8月31日現在	基準価額と純資産額の推移
基準価額	12,676円	
純資産額	4億7,152万円	

■ 期間別騰落率(%)

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
+4.26%	+12.65%	+47.07%	—	+26.76%

■ 組入れファンドの内訳 (組入比率は8/31付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標組入比率	目標比
さわかみF	日本	18%	18%	±0%
キャピタルF	欧米	24%	25%	-1%
ハリスF	欧米	17%	17%	±0%
コムジエスF	イマジ	33%	40%	-7%
キャッシュ	—	8%	—	8%

※現在は段階的に「目標組入比率」に向けたポートフォリオ構築途上にあります。詳しくは下記「ファンドマネージャー コメント」の「運用報告」および「今後の運用方針」をご参照願います。

ファンドマネージャー コメント

■ 投資環境と見通し

「将来への不安」と「株式投資」

日本では少子高齢化が進むなか、「将来への不安」がますます高まっています。

賃金低迷、増税、医療費負担増、年金負担増、年金受給減、インフレ・・・など多くの不安が待ち構えています。

この「将来への不安」に備えるにはどうしたらよいのでしょうか？

基本は将来に備えて「貯める」ことだと思います。

「貯める」手段としては、銀行預金、債券、株式(投信含む)、金、不動産(アパート経営など)・・・が考えられます。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

どれを選ぶかは各人の好みにもよりますが、「10年後・20年後・30年後」という「将来の不安」に対する備えですから、長期間で最も高いリターンが期待できる資産に投資するのが合理的と言えます。そしてこれまでの実績では、株式が最も高いリターンとなっています。

株式投資の長期リターンが高いのは・・・？

ではなぜ株式投資の長期リターンが高いのでしょうか？
次のように考えることが可能だと思います。

- ① 全てのリターンの源泉は企業収益から。
(国は企業からの税金、家計は企業からの報酬、に依存)
- ② 銀行預金、債券、株式の比較では株式が最も企業収益を享受。
銀行預金・・・銀行経由で企業に間接投資。銀行による元本保証がある分、リターンは小。
債券・・・企業への直接投資。企業による元本保証があるためリターンは金利だけ。
株式・・・企業への直接投資そのもの。企業は株主のもの・・・元本保証ないが、企業収益の全てが株主のもの＝リスクあるがリターン大。
- ③ ところで、企業が収益を得られるのは世界成長があるから。
- ④ 世界成長は「人口増」「技術革新」「豊かさへの欲求」などがある限り続く。
- ⑤ 1980年以降の世界成長(名目GDP伸び率)は約6%の実績(出所:IMF)。
- ⑥ この実績「6%」はこの期間の世界企業の平均的な収益率としてとらえられるが、大企業上場企業の収益率(株式市場のリターン)はこれより高めに表れている。
(1980-2008年平均実績値・・・日本:名目GDP「約3%」に対しTOPIXリターン「約6%」、米国:名目GDP「約6%」に対しSP500リターン「約12%」)
- ⑦ 今後の世界経済は、今回の住宅バブル崩壊を受け先進国中心に停滞を強めるものと思われるが、下記のように「4%」程度の成長は可能と考える。
・・・世界成長「4%」≒人口増要因「1%」+技術革新要因「1%」+物価上昇要因「2%」
従って、世界の株式市場のリターンは世界成長「4%」を上回る「6~8%」程度が期待できると考えることには合理性がある。

このような考え方から、ユニオンファンドは株式運用に特化しています。

運用に当たっての基本方針

運用に当たっての基本方針は下記の通りです。

- ① 株式市場が過熱した状況にある時にも「株式100%」の運用を行うことには大きなリスクが伴います。したがって、過熱・割高時には現金比率を高め、次の割安時での買い増しに備えます。
- ② 市場全体をカバーする「インデックス」に投資するよりも、割安で優良な企業のみを選び出して投資する「アクティブ型」投資の方が良好な成果が得られると考えるのは合理的です。現実には、長期間にわたりインデックスを上回る「アクティブ」ファンドが、少数ですが世界に点在します。ユニオンファンドでは実績のある「アクティブ」ファンドに投資します。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ 地域別「目標」投資配分としては、世界の株式市場シェアに比べて「日本」と「エマージング」のウエイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「エマージング」: 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

8月は「エマージング」を5%増やし、その分「日本」を2%、「欧米」を3%引き下げました。

※なお、配分変更による組入れファンドの一部売却は行っておりません。新規流入資金にて段階的に変更しております。

■ 8月の世界株式市場は初旬に上昇した後、高値警戒感や中国・上海市場の調整などから一時下押ししましたが、その後は強い経済指標などを背景に高値圏で終わりました。

現在、市場で懸念されている弱気材料は次の2点と思われます。

- ① 圧縮し過ぎた在庫を積み増す動き(=生産増)などから景気は回復してきたが、在庫積み増し一巡後は再度失速するのではないか？
- ② 世界同時巨額の財政出動がいつまでも続くわけがない。財政息切れまでに民間へのバトンタッチがうまくできなければ景気は再度失速するのではないか？

確かに、その可能性は否定できません。しかし、

- (1) 景気回復は始まったばかりです。財政出動効果はこれから本格的に寄与してきます。従って少なくとも来年半ば辺りまでは強い経済指標が続くものと思われます。
- (2) その後、もし市場の懸念通りに勢いが衰えた場合には「出口戦略(金融引き締め)」は後ずれし、超金融緩和・低金利が引き続き維持され、景気回復を下支えするものと思われます。

従って、今後の世界株式市場は強弱感が対立しながらもファンダメンタルズ改善を背景に「ジリ高」で推移するものと考えています。

■ 長期投資の観点からは“まだ割安な水準にある”と判断し、引き続き「強気」スタンスを継続しています。8月中の組入れ比率は下旬まで平均97%で推移しましたが、月末では新規資金流入もあり月末は92%となっています。

■ 基準価額は3月以降順調に上昇を続け、8月は12,000円台を固める動きでした。

8月の具体的な推移としては、初旬に高値12,818円(8/11)を付けたあと、中旬に安値12,272円(8/19)まで下落し、その後は順調に上昇して月末には12,676円となりました。

■ 今後の運用方針

● 目標投資比率

長期投資の観点からは上記の通りまだ「投資妙味のあるタイミング」と認識しています。

しかし、短期的には上海市場の状況などを勘案しますと、「ジリ高」のなかにあつて「下押し」局面もたびたび生じてくるものと思われます。従って、「目標投資比率」はこれまでの原則「フル運用」(98%程度)から「90~100%」に拡大し、柔軟に対応していきます。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

…日本:18%、欧米:42%、エマージング:40%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標組入比率

現在の「ファンド別目標組入比率」を維持します。

…さわかみF:約18%、キャピタルF:約25%、ハリスF:約17%、コムジェストF:約40%

(比率変更を先月行い、現在変更途上にあります。)

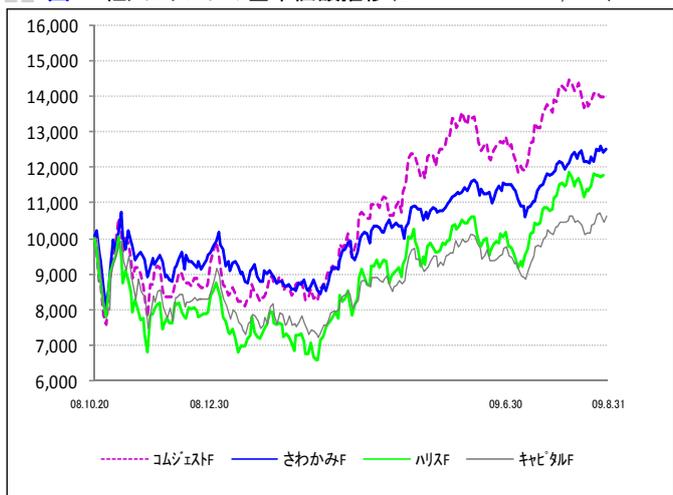
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

4ファンドとも3月以降順調に上昇中。
8月1ヶ月騰落率は次の通り。
・・・「コムジェストF:3.0%」、「さわかみF:5.2%」、
「ハリスF:8.8%」、「キャピタルF:2.7%」。

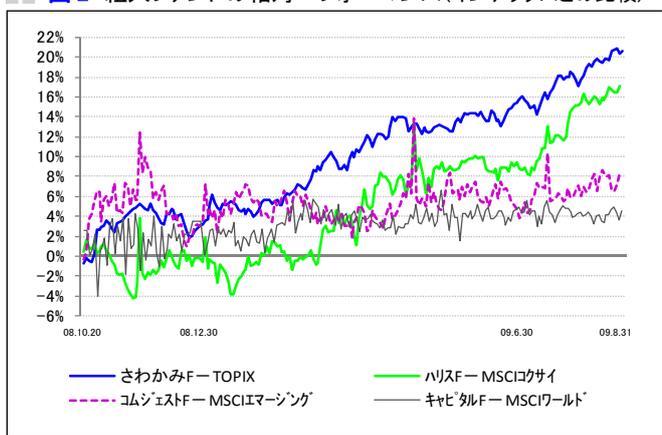
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」・・・輸出関連株の上昇などからインデックスを約20%凌駕。
「ハリスF」・・・金融株・割安株の反発から約17%凌駕。
「コムジェストF」・・・銘柄選択効果などから約8%凌駕。
「キャピタルF」・・・安定的に約5%凌駕。

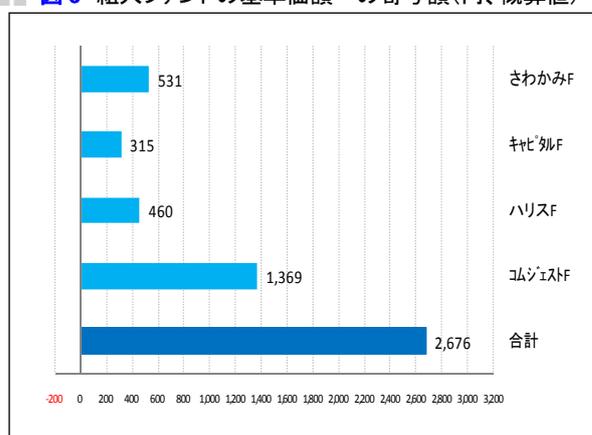
>> 図3 寄与額

8月末の基準価額が12,656円となっているため、2,676円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り。4ファンドともプラス寄与。なかでも「コムジェストF」の貢献が大きい。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

時価総額シェア・・・昨年10月を底に「エマージング」が上昇中。その分「欧米」が低下。「日本」は横這いからやや低下。

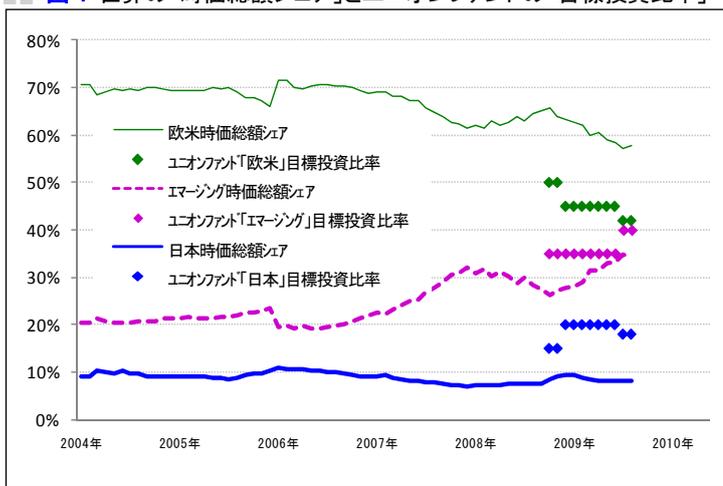
「地域別目標投資比率」

- 日本 : 18% (シェア比+10%)
- 欧米 : 42% (シェア比▲16%)
- エマージング : 40% (シェア比+6%)



運用部長 (ファンドマネージャー)
坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

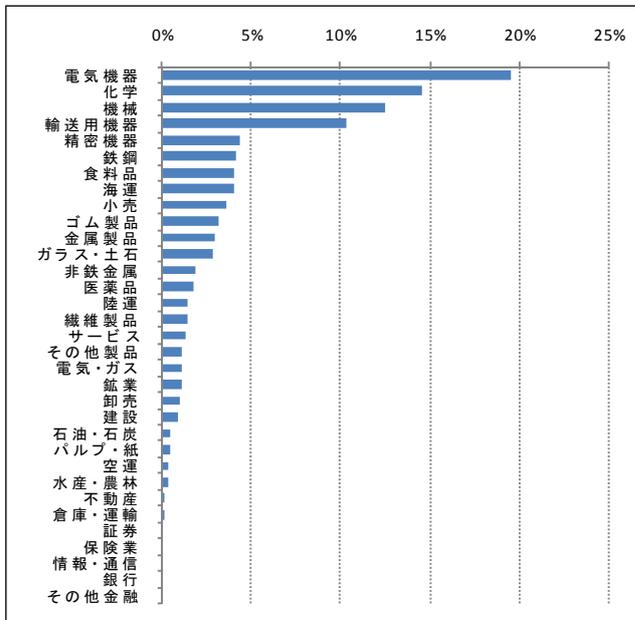
さわかみF（さわかみファンド）

株式組入上位10銘柄等

2009年8月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	商船三井	3.9%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一
2	花王	3.1%	日本	化学	トイレット紙首位
3	ブリヂストン	3.0%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
4	コマツ	2.8%	日本	機械	建設機械でキャタピラーと双壁
5	パナソニック	2.7%	日本	電気機器	総合家電首位
6	SUMCO	2.5%	日本	金属製品	半導体用シリコンウエハー大手
7	トヨタ自動車	2.3%	日本	輸送用機器	自動車世界トップ
8	信越化学	2.2%	日本	化学	塩ビ・シリコンウエハー世界大手
9	セブン&アイ	2.0%	日本	小売	日本最大の小売グループ
10	デンソー	1.8%	日本	輸送用機器	トヨタグループの中核
上位10銘柄		26.4%			
その他189銘柄		70.4%			
キャッシュ		3.3%			

業種別構成比



業種：東証33業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆組入銘柄数は約190。最近1年間で約120銘柄を圧縮。
業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
- ◆具体的には、以下の特徴がある。
 - (1) 電気機器、化学、機械、輸送用機器、精密、鉄鋼など「ものづくり」企業の比率大。
 - (2) 食料品、小売などの「生活関連」企業の比率大。
 - (3) 金融、通信、不動産、運輸などの「内需型」企業の比率小。
- ◆中小型銘柄から大型・国際優良株へのシフトを進めている。
環境・太陽光関連銘柄が組入れ上位に入ってきた。
中国・資源関連の海運がトップ銘柄に。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (CIF グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

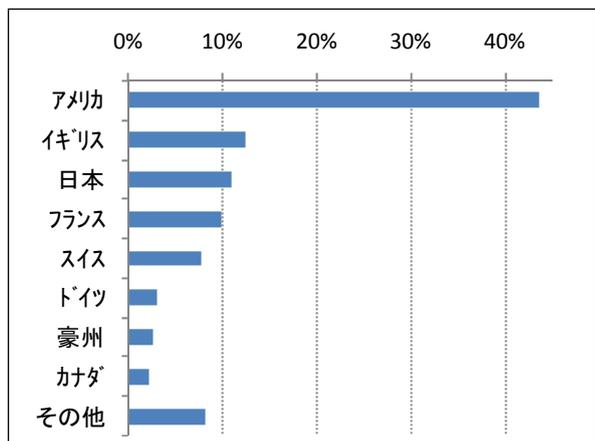
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 7 月末現在

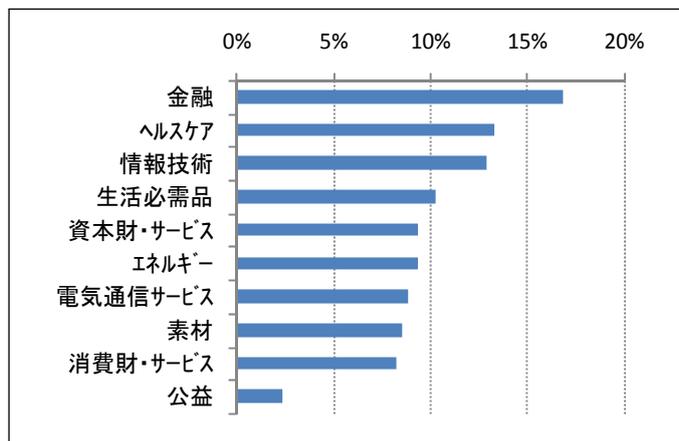
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Royal Dutch Shell	3.4%	オランダ	エネルギー	石油ガス
2	Roche	3.1%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
3	PepsiCo	2.3%	アメリカ	生活必需品	飲料大手
4	Bouygues	2.1%	フランス	電気通信サービス	通信大手
5	Goldman Sachs	1.9%	アメリカ	金融	世界有数の投資銀行
6	Celgene	1.8%	アメリカ	ヘルスケア	急成長バイオ
7	Target	1.5%	アメリカ	消費財・サービス	小売チェーン大手
8	HSBC	1.4%	イギリス	金融	世界有数の金融グループ
9	Google	1.4%	アメリカ	消費財・サービス	世界最大のネット検索
10	Johnson & Johnson	1.3%	アメリカ	ヘルスケア	日用雑貨ヘルスケア
上位 10 銘柄		20.2%			
その他		78.2%			
キャッシュ		1.6%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 最悪期を脱した金融株の比率を引き上げてきている (08 年前半: 約 22% → ボトム: 11% → 現在 17%)。

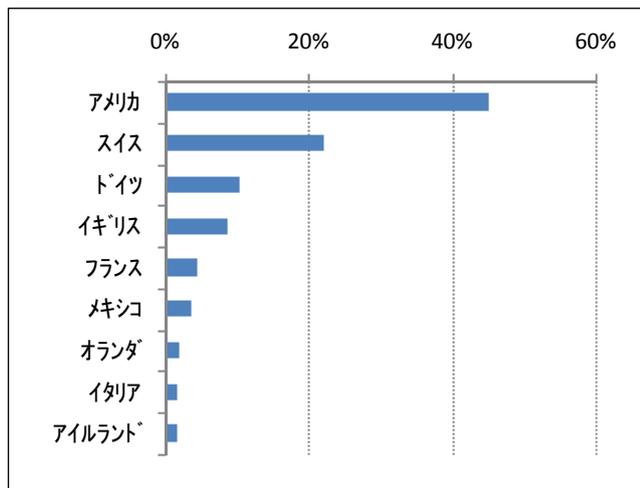
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2009 年 7 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	INTEL	7.0%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
2	JULIUS BAER	4.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
3	HEWLETT PACKARD	4.3%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手
4	FRANKLIN RESOURCES	4.0%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)
5	CATERPILLAR	3.9%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ
6	FINANCIERE RICHEMON	3.8%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・コングロムリット
7	BANK OF NEW YORK MELLON	3.5%	アメリカ	各種金融	金融大手
8	CARNIVAL	3.3%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船
9	DAIMLER	3.2%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
10	ADECCO	3.2%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開
上位 10 銘柄		41.0%			
その他 30 銘柄		53.2%			
キャッシュ		5.8%			

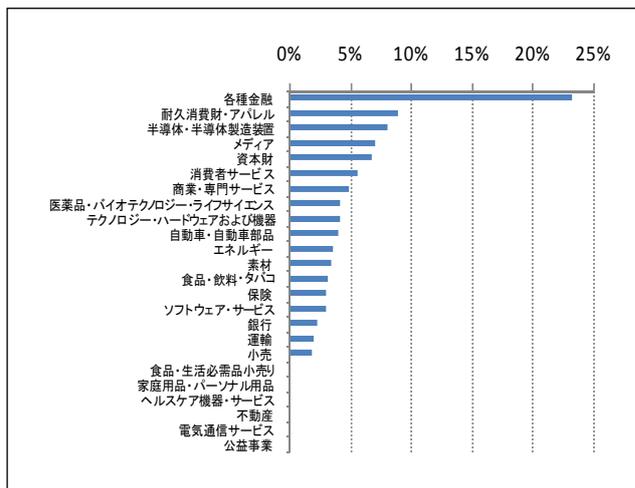
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2009 年 8 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本を除くグローバルに投資。
- ◆ 2007 年 7 月のファンド設定以来、「金融」を一貫して 3 割程度組入れ。
- ◆ 「消費財・サービス」(メディア・アパレル・サービス...) など安定成長セクターにも高ウエイト。
- ◆ 最近、資本財(キャタピラー)・自動車(ダイムラー)などのウエイトもアップ。

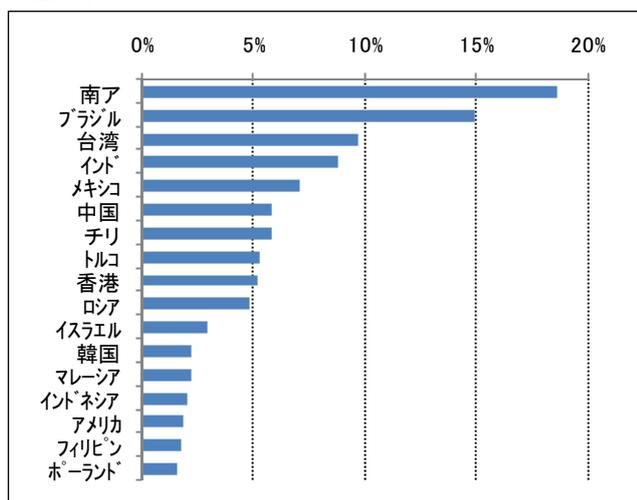
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2009 年 8 月末現在

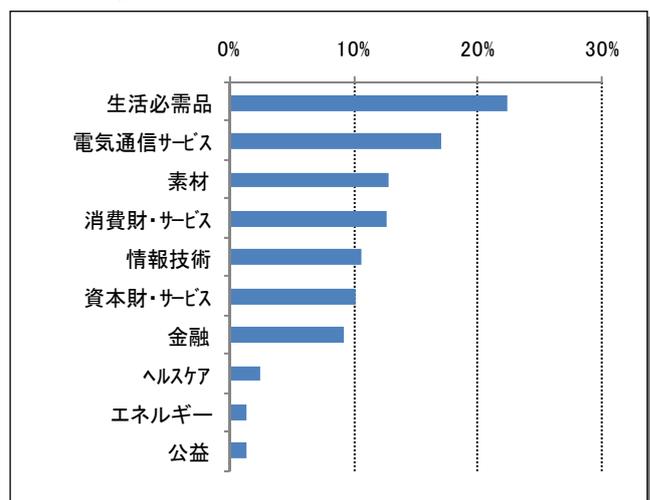
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	5.3%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	MTN	4.1%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
3	JBS	4.1%	ブラジル	生活必需品	食肉加工
4	MOBILE TELESYSTEMS	3.3%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話
5	ANGLOGOLD ASHANTI	3.2%	南ア	素材	金鉱開発
6	GAFISA	3.1%	ブラジル	消費財・サービス	住宅建設
7	EMPRESAS COPEC	2.9%	チリ	資本財・サービス	石油ガス・農林水産
8	GOLD FIELDS	2.9%	南ア	素材	金鉱開発
9	GRUPO TELEV	2.9%	メキシコ	消費財・サービス	メディア
10	COCA-COLA ICECEK URETIM	2.9%	トルコ	生活必需品	ボトラー
上位 10 銘柄		29.4%			
その他 31 銘柄		67.9%			
キャッシュ		2.7%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆新興国の割安な 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆財務体質が健全で情報開示の透明性が高い割安な企業に選別投資。
- ◆高成長新興国中心のポートフォリオ。
- ◆衣食住・インフラ等生活関連銘柄のウエイトが高い。
- ◆ブラジル：住宅、メキシコ：メディア、トルコ：ボトラーが今回トップテン入り。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

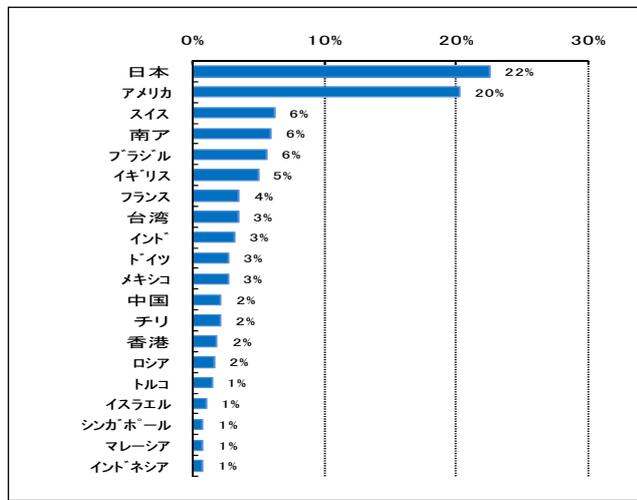
■株式組入上位 20 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 7 月末現在

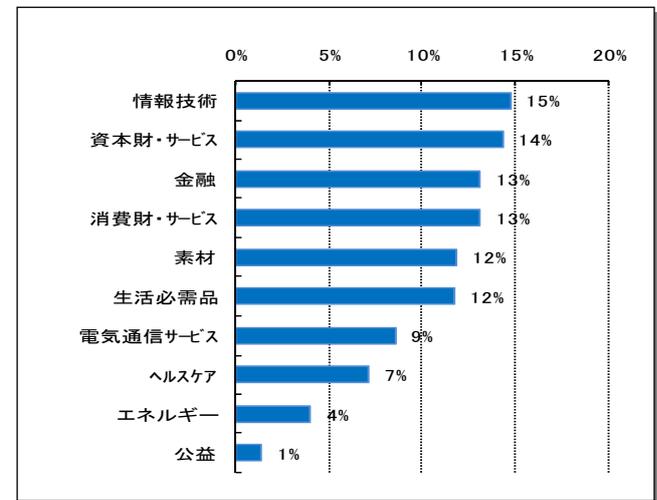
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	1.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	MTN	1.4%	南ア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	JBS	1.4%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジェストF
4	INTEL	1.3%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
5	EMPRESAS COPEC	1.1%	チリ	資本財・サービス	石油ガス・農林水産	コムジェストF
6	CHINA MOBILE	1.1%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
7	MOBILE TELESYSTEMS	1.1%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
8	GOLD FIELDS	1.0%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
9	CHINA LIFE INSURANCE	1.0%	中国	金融	生命保険	コムジェストF
10	TIM PARTICIPACOES	1.0%	ブラジル	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
11	AMDOCS	1.0%	イスラエル	情報技術	ソフトウェア開発・サービス	コムジェストF
12	Royal Dutch Shell	0.9%	オランダ	エネルギー	石油ガス	キャピタルF
13	JULIUS BAER	0.9%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
14	Roche	0.9%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手	キャピタルF
15	HEWLETT PACKARD	0.8%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手	ハリスF
16	FRANKLIN RESOURCES	0.7%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)	ハリスF
17	CATERPILLAR	0.7%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ	ハリスF
18	FINANCIERE RICHEMON	0.7%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・ラグジュアリー	ハリスF
19	BANK OF NEW YORK MELLON	0.6%	アメリカ	各種金融	金融大手	ハリスF
20	PepsiCo	0.6%	アメリカ	生活必需品	飲料大手	キャピタルF
	上位 20 銘柄	20.2%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他銘柄	77.3%				
	キャッシュ	2.5%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 約 500、投資国数: 約 30 カ国。
- ☆組入上位 20 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: 日本・アメリカが 2 割程度で 1・2 位。新型インフルエンザ関連で大手薬品会社を擁するスイスが 3 位に。南ア・ブラジル・インドなどの新興国も上位に。
- ☆業種別構成比: 情報技術から生活必需品まで 6 業種が 15~12%の比率。全体的に好バランス。市況関連のエネルギー・素材が低下し、安定成長が期待できる通信・情報技術の比率が高まってきている。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

“世界経済の成長”を享受するために

ユニオン投信株式会社 代表取締役
田子 慶紀



“目的”に向かって

突然ですが、「BYD」という会社をご存知でしょうか？

この会社は今、世界で最も元気な国といえる中国の中でも元気一杯な会社の名前です。昨年9月、ユニオンファンドが誕生する少し前、世界中が「金融危機」の煽りを受けて悲観に暮れている時期、かのウォーレン・バフェット氏が突然この会社の大株主になることを発表して一躍脚光を浴びた会社です。1995年に設立した歴史の浅い企業ですが、再生可能な二次電池（バッテリー）をベースに二酸化炭素排出の少ない「電気自動車」の製造に成功し地球環境対策に取り組んでいます。この会社は、電池と携帯電話端末向け組み立て部品の製造を主力にスタートしました。まさに戦後のホンダやソニー、松下（現パナソニック）といった今や日本を代表する会社のイメージを彷彿とさせられます。

また、社名である「BYD」の由来は「Build Your Dream（あなたの夢を育てます）」の頭文字を取っています。なんとも素敵な社名ではないでしょうか!!

私たちは今、特に定年退職後“「心豊かな生活」を送る”という目的に向かって資産運用を行っています。

個人が目や耳に入らな世界で繰り広げられている元気企業の「成長」や「進化」、そしてそこから波及する「世界経済の成長」を私たちは「投資」という形で共有することができます。

まず“行動”を起こすこと

前述のウォーレン・バフェット氏はこれまでコカ・コーラ社やカミソリのジレット社など誰もが見向きもしない頃から投資してきました。そして今回BYD社に出資しました。出資するまでの調査にどの位時間をかけたのか知るよしもありますが、出資のタイミングは金融危機による世界中の株式が大暴落を演じた最中だったことはとても幸運だったと思います。しかし、大暴落があったから投資したのでしょうか？もちろん金融危機によるマーケットの下落はある程度読んではいたでしょうが、大底のあのタイミングまでは読んではいなかったと思います。逆に言えば、今回の「金融危機」が起これなくてもいずれ同社への投資行動は取ったと考えられます。

一方、投資信託による資産運用を考えてみましょう。

“基準価額が高くなると購入しづらい…”、“基準価額は低い方が配当（分配）利回りが高くなる”という言葉を耳にします。確かにデフレ経済の今、日常生活に必要な食料・衣料品等は安くて品質の良い商品が選好され、高額な商品は敬遠されてしまいます。しかし、これらの商品と金融商品の“投資信託”は分けて考える必要があります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受取権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

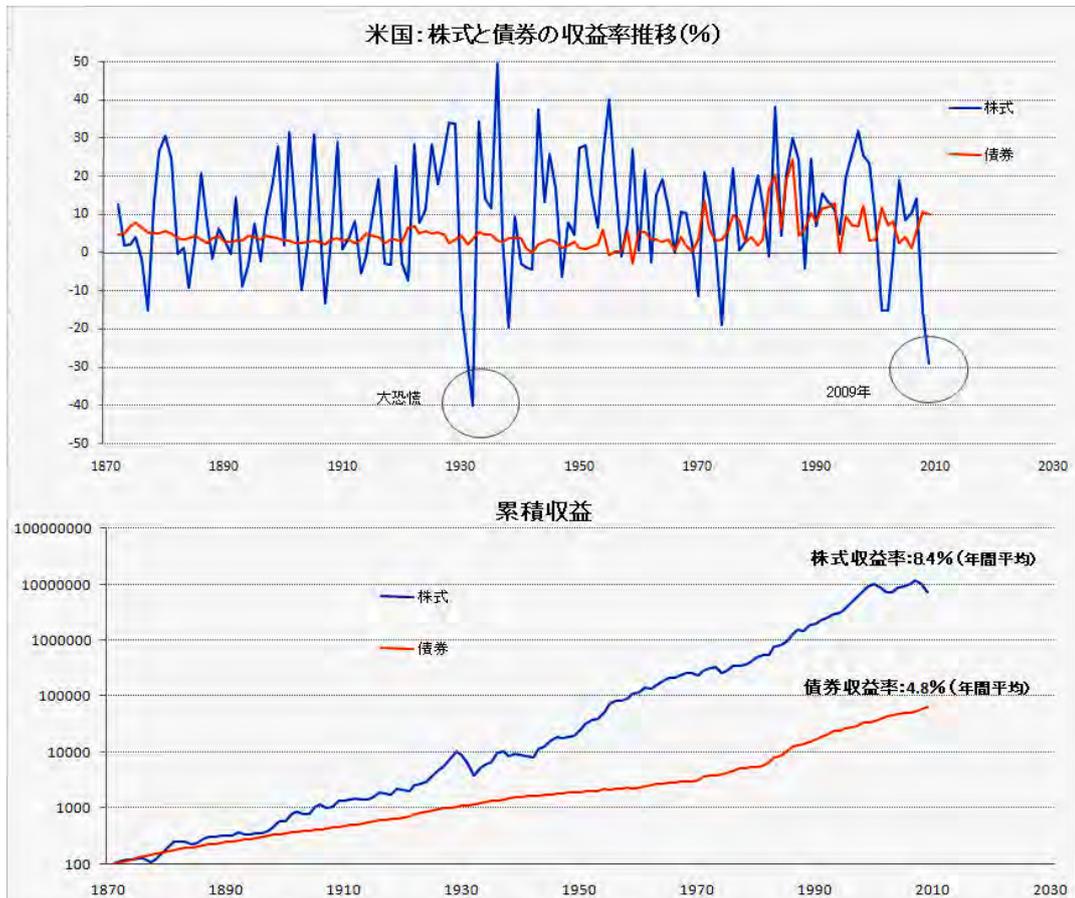
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

“無限成長”の可能性

本来投資信託は、目先の値上がりを追求するのではなく、資産を殖やす目的で時間を味方に付け“どっしりと構えた運用”を行う“長期投資商品”です。

さらに、投資先（個別銘柄や国、地域等）と資産配分の見直しを行い、その作業を丁寧に繰り返して行くことによって投資信託の基準価額は無限に上がって行く、と言うのも理論的にあり得る事です。

下の図は“無限成長の可能性”をイメージし易い例になっていると思います。これは過去 140 年間の米国における株式と債券の収益率を表したものです。



(出所)米 FRB、S&P 社、Robert Shiller ホームページよりユニオン投信作成

ご覧のとおり上段の「収益率推移」(前年に比した騰落率)は、株式の場合上下に大きくブレています。年ベースでの騰落が激しい動きになっていることがお分かりになることと思います。しかし、年ベースではなく、営業日ベースで表した場合一体どうなるでしょう。多分もっと小刻みで上下動の激しい図になるのではないのでしょうか。そして、目まぐるしく上下動する株価と周囲の雑音によって、目先の儲けを狙う投資家はその都度一喜一憂しなければならないのです。

一方、下段「累積収益」の図は上段の「収益率推移」を“累積”したものです。

例えば大恐慌があった 1930 年頃を見ていただくと、上段の「収益率推移」図では大幅な下げを記録しています。しかし、下段の「累積収益図」では確かに大きな下げではありますが、長期で捉えると一時の凸凹にしか見えないほどの問題に過ぎません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見直し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

投資の“タイミング”

このように、グローバルな株式投資信託は“長期的な世界経済の成長を享受して大きく育つ”商品です。「累積収益」図のように世界経済の成長と共に将来的に値上がりが続いていくものと考えます。

従って“時間が資産を殖やす”という前提で考えれば“投資のタイミング”はいつの時点で開始してもよいことになり、どのタイミングで追加資金を投入してもよいこととなります。そして、複利の効果を得るためには、いかに早く“開始”するかが大切だと思います。

ただ、投資を開始した直後に値下がりすることは多分にあり得ます。その場合、“将来的には値上がりするであろう”と分かっているにもかかわらず精神的には辛いものがあります。それを避けるには投資資金を何回かに分ける、いわゆる“時間分散”投資を行うのが良いのではないのでしょうか。

平成 21 年 9 月 3 日記

『ユニオンファンド』のリスク

一 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 一

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの方式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

一 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手数料等および税金」をご覧ください。 一

【申込手数料】・・・お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】・・・ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

【信託報酬】・・・総資産総額に年 0.84%（税抜き 年 0.8%）の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年 1.9%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】・・・信託財産留保金はありません。

【その他の費用】・・・『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 弊社へ登録されているお名前の変更について ◆

お客様のご参考になるようなお問い合わせをいただきましたので、ご紹介いたします。

Q: 結婚して名前が変わりました。どのような手続きが必要ですか？

A: ご登録事項の変更手続きが必要となりますので、「登録事項変更届」をご請求ください。

ご請求方法は、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡いただくか、弊社ホームページ (<http://www.unionam.co.jp/>)「各種変更手続き」ページの「登録情報変更用紙請求」フォームよりご請求お願いいたします。

「登録事項変更届」にてご変更いただく事項は以下の通りです。

- ◎ お名前
- ◎ ご住所(お住いが変わられた場合)
- ◎ お届出印またはお届出サイン(印鑑またはサインが旧姓の場合)
- ◎ 解約代金の振込先指定口座(新姓での口座)

なお、「本人確認書類」として、「現住所」、「旧姓と新姓の両方のお名前記載」、「生年月日」の3項目が確認できる書類をご用意ください。

(例:有効期限内の免許証の表面と裏面、発行日より6ヶ月以内の戸籍謄本と附票など)

《ご注意》

定期定額購入をご利用されているお客様は、引落先の金融機関口座も新姓での口座に変更が必要となりますので、「定期定額購入の引落口座変更」用紙も合わせてご請求お願いいたします。

◆ 定期定額購入について ◆

毎月5日(休日の場合は翌営業日)にご指定いただきました金融機関口座より自動引落としされ、8営業日後の基準価額にて購入いたします。

なお、“新規申込み”“各種変更”には、締切日がございます。締切日を過ぎて届出書類が弊社へ到着した場合には、ご希望される月からは反映されませんのでご注意ください。

定期定額購入スケジュール

引落開始月	新規申込み 引落口座変更 締切日	金額変更 引落中止 締切日	ご指定の金融機関 口座からの引落日	ファンドご購入日 (約定日)
10月	締切りました	9月15日(火)	10月5日(月)	10月16日(金)
11月	10月1日(木)	10月20日(火)	11月5日(木)	11月17日(火)
12月	11月2日(月)	11月19日(木)	12月7日(月)	12月17日(木)

ご不明な点などがありましたら、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。